

制野俊弘先生 講演会

命と向き合う教室

～子どもが「命」に見える学校・学級づくり～

東日本大震災から4年、親しい人を失った悲しみを抱えつつも、誰にも打ち明けられずにいる中学生たちに綴方を通して関わり、その心をとほぐす指導をされてきた制野俊弘先生をお迎えして、下記の通り講演会を行います。

皆さま、ふるってご参加ください（事前申込み不要・参加費無料です）。

記

- 日 時： 2016年2月20日（土）
- 13：00— 受付
 - 13：30— 「命と向き合う教室」の実践紹介（ビデオ視聴・50分）
 - 14：20— 休憩
 - 14：30— 講演「命と向き合う教室
～子どもが『命』に見える学校・学級づくり～
質疑応答
 - 16：30 終了
- 場 所： 京都大学教育学部 第二講義室（総合研究2号館 北側1階）
- 講 師： 東松島市鳴瀬未来中学校 制野俊弘先生

<参考>

命と向きあう教室

～被災地の15歳・1年の記録～

NHKスペシャル

初回放送

2015年3月29日（日）
午後9時00分～9時49分

関連ジャンル

災害



「命は、強くて弱い、美しいもの。でも僕は答えを出せていません」（東日本大震災で母と姉を亡くした男子生徒の作文）。

震災から4年。宮城県東松島市の鳴瀬未来中学校の3年生82人が、1年間かけて授業で「命」と向きあっている。震災を体験した生徒同士が、毎月1回、作文を発表し、それに対する感想を伝え合う。親しい人を失った悲しみを誰にも打ち明けられずに抱え込み、心にふたをしているように見える生徒たちを心配した教師が、児童心理や教育学の専門家と相談しながら始めた。涙ながらに体験を吐露する友人に同級生が言葉を掛け合う命の授業は、心のケアにつながる可能性があるだけでなく、人が抱える痛みに思いをはせ、いたわり支えあうという、人として最も大切なことを学ぶ場にもなろうとしている。

卒業式、そして3月11日をへて、それぞれの未来へ一歩踏み出すまでの15歳の1年を見つめる。